

**JPA**

---

# 2018（平成30）年紙・板紙内需試算報告

平成30年1月22日

日本製紙連合会

- I . 2017(平成29)年 紙・板紙内需実績見込み……P3
- II . 2018(平成30)年 紙・板紙内需試算(総括)…P4～6
- III . 2018(平成30)年 品種別内需試算……………P7～21
- IV . 参 考……………P22

# JPA I. 2017年 紙・板紙内需実績見込み

(単位:ト、%)

品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		17年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)			
紙	新聞用紙	2,779,822	▲ 4.5	7	▲ 100.0	2,779,829	▲ 5.0	0	2,779,829	▲ 5.0	▲ 3.2	▲ 1.8
	非塗工印刷用紙	1,888,974	▲ 2.8	136,740	▲ 5.8	2,025,714	▲ 3.0	▲ 1,535	2,027,249	▲ 3.1	▲ 3.0	▲ 0.1
	塗工印刷用紙	4,290,861	▲ 1.1	366,334	▲ 1.5	4,657,195	▲ 1.1	33,743	4,623,452	▲ 2.5	▲ 3.4	0.9
	情報用紙	1,314,581	▲ 1.9	493,803	1.3	1,808,384	▲ 1.1	7,829	1,800,555	▲ 1.9	0.0	▲ 1.9
	印刷・情報用紙計	7,494,416	▲ 1.7	996,877	▲ 0.8	8,491,293	▲ 1.6	40,037	8,451,256	▲ 2.5	▲ 2.5	0.0
	未ざらし包装紙	461,703	▲ 0.1	7,004	22.9	468,707	0.2	246	468,461	0.2	▲ 0.6	0.8
	ざらし包装紙	245,187	▲ 1.2	1,341	19.9	246,528	▲ 1.2	2,589	243,939	▲ 2.0	▲ 1.6	▲ 0.4
	包装用紙計	706,890	▲ 0.5	8,345	22.4	715,235	▲ 0.3	2,835	712,400	▲ 0.6	▲ 1.0	0.4
	衛生用紙	1,799,302	▲ 0.4	205,037	9.5	2,004,339	0.5	0	2,004,339	0.5	0.7	▲ 0.2
	雑種紙	757,682	6.5	17,466	▲ 8.9	775,148	6.1	0	775,148	6.1	0.4	5.7
紙 計	13,538,112	▲ 1.6	1,227,732	▲ 0.5	14,765,844	▲ 1.5	42,872	14,722,972	▲ 2.1	▲ 2.0	▲ 0.1	
板紙	ライナー	5,512,036	2.2	41,231	2.4	5,553,267	2.3	▲ 2,060	5,555,327	2.3	0.7	1.6
	中芯原紙	3,652,671	1.7	363	▲ 82.5	3,653,034	1.7	▲ 706	3,653,740	1.8	0.7	1.1
	段ボール原紙計	9,164,707	2.0	41,594	▲ 1.7	9,206,301	2.0	▲ 2,766	9,209,067	2.1	0.7	1.4
	白板紙	1,427,829	1.0	456,819	3.4	1,884,648	1.6	▲ 5,977	1,890,625	1.9	▲ 0.6	2.5
	黄チップ・色板	142,653	▲ 0.3	0	-	142,653	▲ 0.3	604	142,049	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 0.2
	紙器用板紙	1,570,482	0.9	456,819	3.4	2,027,301	1.5	▲ 5,373	2,032,674	1.7	▲ 0.6	2.3
	その他の板紙	649,304	2.7	11,328	▲ 14.8	660,632	2.3	1,135	659,497	2.3	▲ 0.2	2.5
板 紙 計	11,384,493	1.9	509,741	2.5	11,894,234	1.9	▲ 7,004	11,901,238	2.0	0.4	1.6	
紙・板紙計	24,922,605	0.0	1,737,473	0.4	26,660,078	0.0	35,868	26,624,210	▲ 0.3	▲ 1.0	0.7	

- 注) 1) 国内出荷: 雑種紙は塗工印刷用原紙を除く。  
 2) 輸入: 新聞用紙は日本新聞協会調べ。通関との差し引き分は非塗工印刷用紙に計上した。  
 重袋用クラフト紙は全量を未ざらし包装紙に計上した。  
 衛生用紙は製品輸入を含む。  
 白板紙はミルクカートン用紙を含む。

# JPA II. 2018年 紙・板紙内需試算 ①増減要因

プラス要因	マイナス要因
<p>①景気は引き続き緩やかな回復基調／実質GDP成長率は1%台半ば程度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業収益の増加を背景に雇用・所得環境は改善し、個人消費は緩やかに増加</li> </ul> <p>②インバウンド効果の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人客数の増加</li> <li>・商業施設、宿泊施設等の増加</li> <li>・製造業の国内回帰、等</li> </ul> <p>③イーコマースの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット通販、越境EC、等</li> </ul> <p>④食品・医薬・健康関連市場は安定</p> <p>⑤イベント開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季五輪・パラリンピック 平昌大会(2-3月)</li> <li>・FIFA W杯(6-7月)</li> </ul>	<p>構造的要因</p> <p>①人口の減少／少子化</p> <p>②情報・広告分野を中心に電子化の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業印刷、出版印刷向け等の減少</li> <li>・企業や自治体等のペーパーレス化(コストダウン強化による使用量の減少)</li> <li>・スマートフォン等の利用拡大(コンテンツの充実)</li> </ul> <p>③包装の合理化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省包装／簡易包装化</li> <li>・軟包装化等包装資材の他素材へのシフト(材質変更)、等</li> </ul>

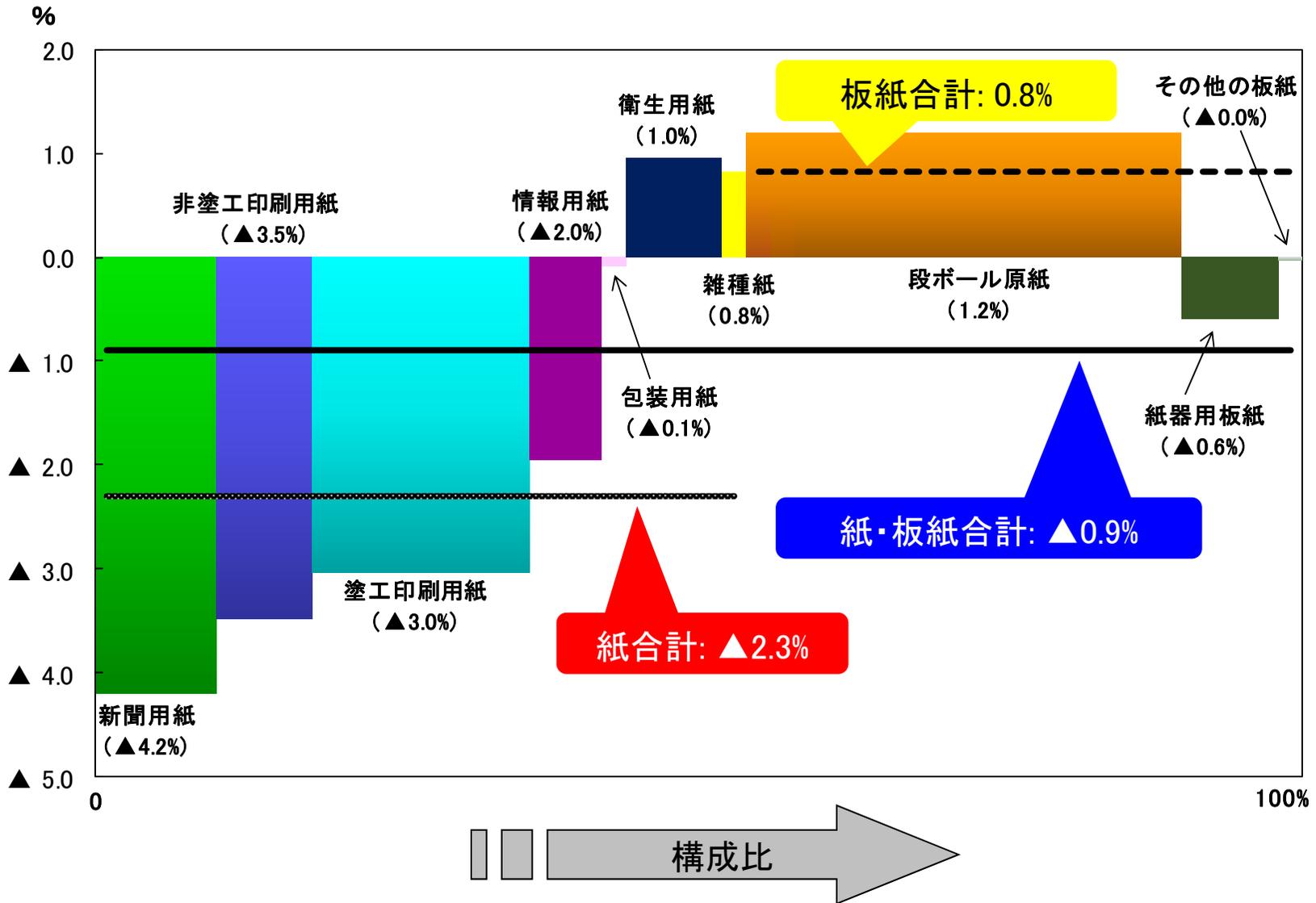
# JPA ②実績推移及び見通し

(単位:千トン、%:対前年増減率)

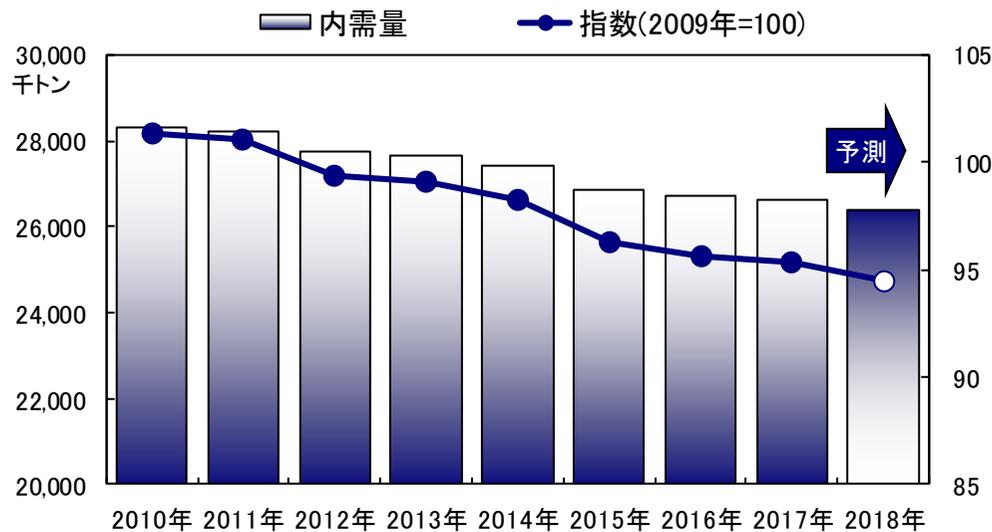
	品 種	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年見込み		2018年見通し	
		数量	増減率	数量	増減率														
紙	新聞用紙	3,349	▲ 1.9	3,245	▲ 3.1	3,305	1.8	3,247	▲ 1.7	3,181	▲ 2.0	3,033	▲ 4.6	2,926	▲ 3.5	2,780	▲ 5.0	2,663	▲ 4.2
	非塗工印刷用紙	2,493	▲ 3.5	2,428	▲ 2.6	2,350	▲ 3.2	2,301	▲ 2.1	2,230	▲ 3.1	2,125	▲ 4.7	2,091	▲ 1.6	2,027	▲ 3.1	1,957	▲ 3.5
	塗工印刷用紙	5,570	▲ 2.2	5,602	0.6	5,476	▲ 2.3	5,391	▲ 1.5	5,170	▲ 4.1	4,954	▲ 4.2	4,743	▲ 4.3	4,623	▲ 2.5	4,483	▲ 3.0
	情報用紙	1,886	2.1	1,853	▲ 1.8	1,849	▲ 0.2	1,839	▲ 0.6	1,831	▲ 0.5	1,813	▲ 1.0	1,836	1.3	1,801	▲ 1.9	1,765	▲ 2.0
	印刷・情報用紙計	9,949	▲ 1.7	9,883	▲ 0.7	9,676	▲ 2.1	9,531	▲ 1.5	9,231	▲ 3.2	8,893	▲ 3.7	8,670	▲ 2.5	8,451	▲ 2.5	8,205	▲ 2.9
	包装用紙	852	9.1	825	▲ 3.2	776	▲ 6.0	761	▲ 1.9	766	0.6	729	▲ 4.8	717	▲ 1.7	712	▲ 0.6	712	▲ 0.1
	衛生用紙	1,856	1.1	1,873	0.9	1,880	0.4	1,895	0.8	1,945	2.6	1,946	0.1	1,994	2.5	2,004	0.5	2,024	1.0
	雑種紙	797	11.8	768	▲ 3.7	744	▲ 3.2	728	▲ 2.1	758	4.1	747	▲ 1.4	730	▲ 2.3	775	6.1	781	0.8
	<b>紙 計</b>	<b>16,804</b>	<b>▲ 0.4</b>	<b>16,595</b>	<b>▲ 1.2</b>	<b>16,380</b>	<b>▲ 1.3</b>	<b>16,162</b>	<b>▲ 1.3</b>	<b>15,880</b>	<b>▲ 1.7</b>	<b>15,348</b>	<b>▲ 3.3</b>	<b>15,037</b>	<b>▲ 2.0</b>	<b>14,723</b>	<b>▲ 2.1</b>	<b>14,385</b>	<b>▲ 2.3</b>
板	ライナー	5,232	4.1	5,285	1.1	5,207	▲ 1.5	5,276	1.3	5,330	1.0	5,336	0.1	5,431	1.8	5,555	2.3	5,622	1.2
	中芯原紙	3,496	3.7	3,515	0.6	3,477	▲ 1.1	3,511	1.0	3,547	1.0	3,549	0.1	3,590	1.2	3,654	1.8	3,698	1.2
	段ボール原紙計	8,728	3.9	8,800	0.9	8,684	▲ 1.3	8,788	1.2	8,877	1.0	8,884	0.1	9,022	1.5	9,209	2.1	9,320	1.2
	白板紙	1,939	2.8	1,975	1.9	1,888	▲ 4.4	1,901	0.7	1,858	▲ 2.3	1,838	▲ 1.0	1,856	1.0	1,891	1.9	1,879	▲ 0.6
	黄チップ・色板	155	2.8	155	0.0	143	▲ 7.7	144	0.8	146	1.2	145	▲ 1.1	143	▲ 1.0	142	▲ 0.8	141	▲ 0.6
	紙器用板紙計	2,094	2.8	2,130	1.7	2,031	▲ 4.7	2,046	0.7	2,004	▲ 2.0	1,983	▲ 1.1	1,999	0.8	2,033	1.7	2,021	▲ 0.6
	その他の板紙	667	9.0	672	0.6	651	▲ 3.1	669	2.8	674	0.7	650	▲ 3.5	645	▲ 0.8	659	2.3	659	▲ 0.0
	<b>板 紙 計</b>	<b>11,489</b>	<b>4.0</b>	<b>11,602</b>	<b>1.1</b>	<b>11,366</b>	<b>▲ 2.0</b>	<b>11,503</b>	<b>1.2</b>	<b>11,555</b>	<b>0.5</b>	<b>11,517</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>11,665</b>	<b>1.3</b>	<b>11,901</b>	<b>2.0</b>	<b>11,999</b>	<b>0.8</b>
<b>紙・板紙計</b>	<b>28,293</b>	<b>1.4</b>	<b>28,197</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>27,746</b>	<b>▲ 1.6</b>	<b>27,665</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>27,434</b>	<b>▲ 0.8</b>	<b>26,866</b>	<b>▲ 2.1</b>	<b>26,702</b>	<b>▲ 0.6</b>	<b>26,624</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>26,384</b>	<b>▲ 0.9</b>	

注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

# JPA ③成長率と構成比



# JPA Ⅲ. 2018(平成30)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計

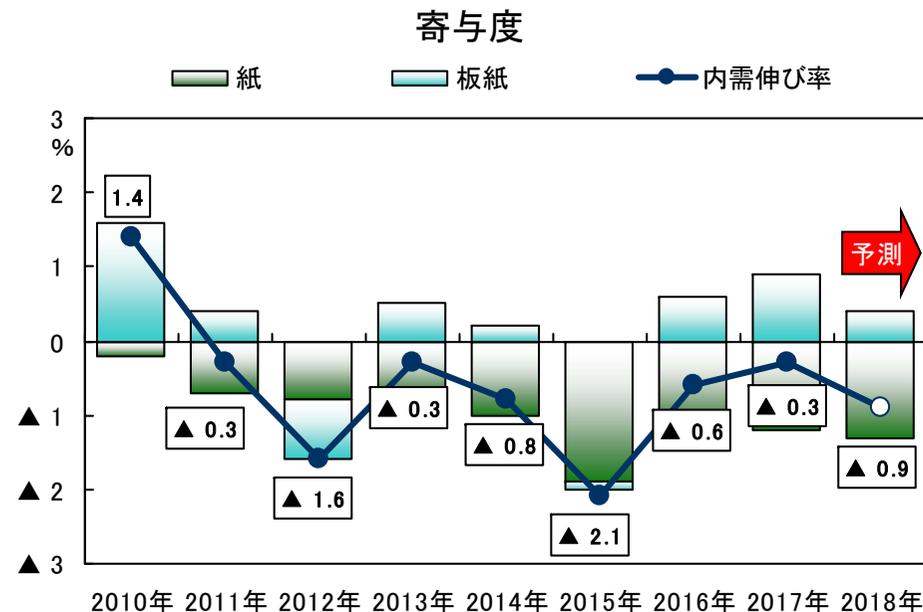


## 「近年の動向」

★紙・板紙の内需は、リーマン・ショック直後に大きく減少し、以降基調としてはマイナスで推移している。デジタル化等の影響で新聞用紙、印刷用紙等グラフィック系の減少が要因だが、一方で日常生活や産業活動に密着した衛生、包装資材向けや工業資材向けに使われる紙(板紙/包装・産業用紙)は堅調に推移している。

## 「2018年予測」

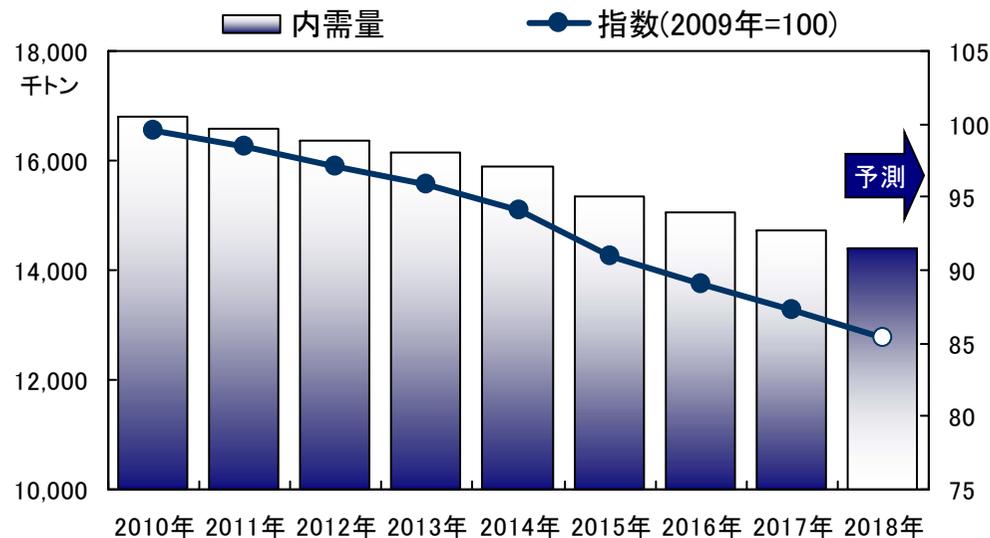
☆景気は引き続き緩やかな回復が見込まれるが、紙・板紙については、2018年も基調に変化なく、グラフィック系は減少も、衛生、板紙/包装・産業用紙は堅調に推移すると見られる。但し、グラフィック系の減少が大きいため、紙・板紙全体の内需は前年を下回ると予想される。



☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は2,638万トン、前年に対して0.9%減となり、8年連続のマイナス成長が見込まれる。

☆なお、紙・板紙別寄与度は、紙は1.3pt減、板紙は0.4pt増で紙のマイナスが全体の押し下げとなる。

# JPA (2) 紙合計

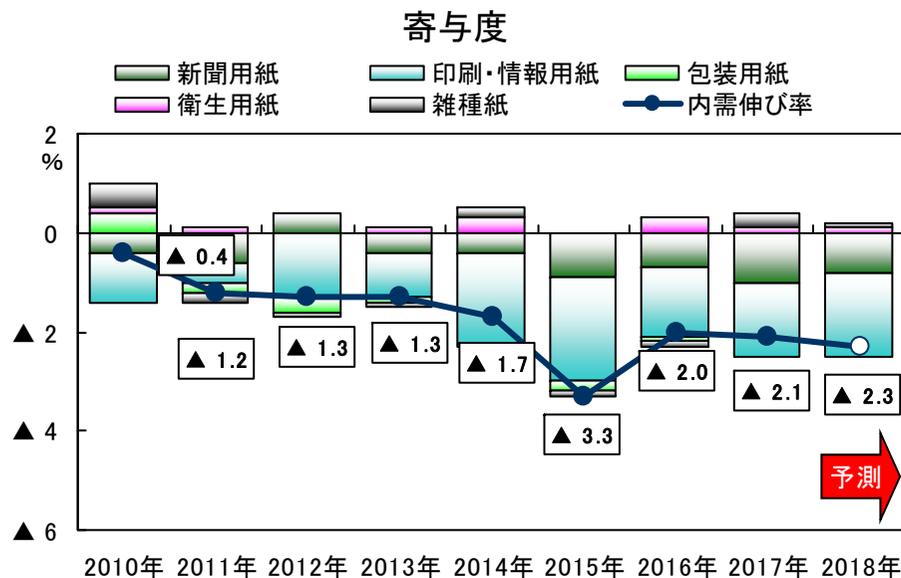


## 「近年の動向」

★紙の内需は2006年をピークに縮小している。2017年は、衛生用紙は前年を上回ったものの、新聞用紙、印刷・情報用紙等は構造的要因等から引き続き前年を下回り、紙全体では11年連続で前年を下回った。

## 「2018年予測」

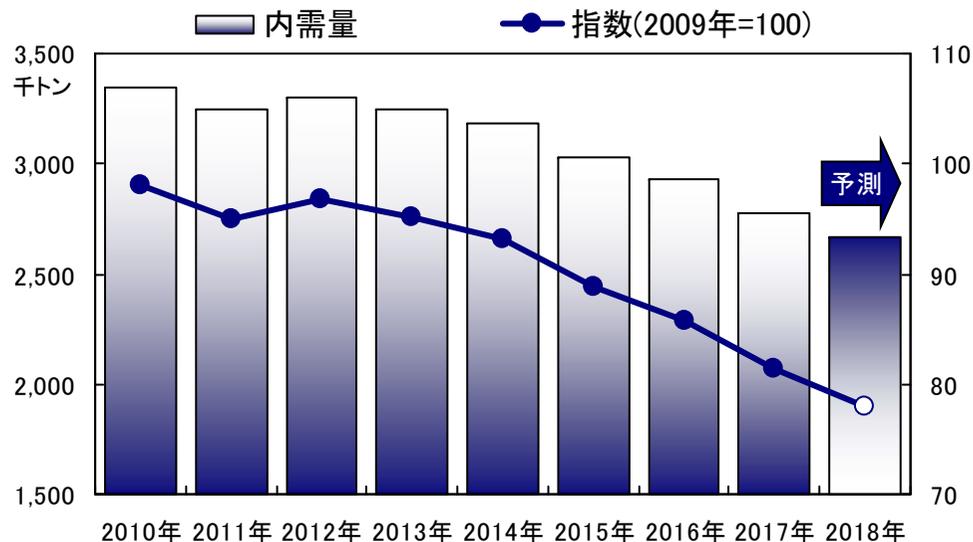
☆主要品種について、衛生用紙は増加を予測したが、新聞用紙、印刷・情報用紙は電子化の進行、ペーパーレス化等により減少。包装用紙は他部材へのシフト等により減少を見込んだ。



☆紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,439万トン、前年に対して2.3%減、約34万トンの減少となる。マイナス成長は12年連続。

☆品種別寄与度は、新聞用紙は0.8pt減、印刷・情報用紙は1.7pt減、包装用紙は0.0pt減、衛生用紙は0.1pt増となっている。

# JPA (3) 新聞用紙



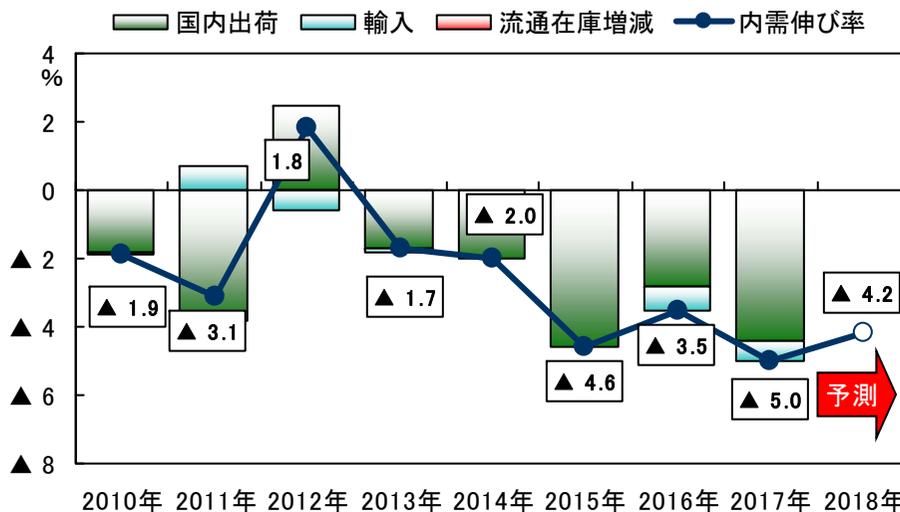
## 「近年の動向」

★新聞用紙の内需は、情報収集手段の多様化に伴い若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告のマス媒体からネット等へのシフトといった構造要因により、減少傾向が続いている。2017年については、発行部数の減少が続いたことに加え、広告出稿減の影響もあって頁数も低調に推移し、内需は前年に対し5.0%の減少となった。

## 「2018年予測」

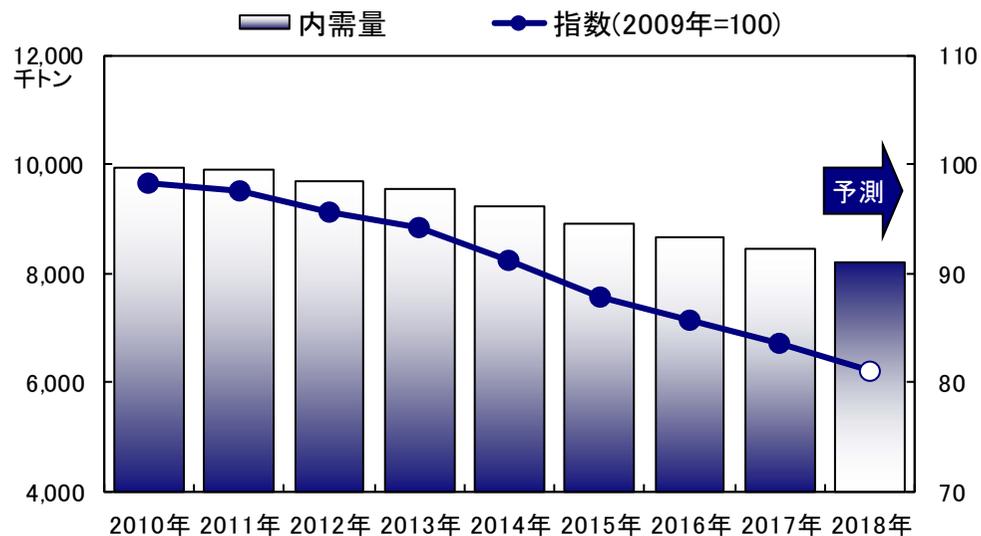
☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。発行部数は引き続き減少が予想される。頁数は、広告の他媒体へのシフト継続で広告出稿が低調に推移すると見られることから、前年を下回ることが予想されるが、減少幅は前年よりも縮小する見通し。また、2018年は朝刊の発行日数が2017年よりも1日少ない。スポット要因としては、2月の平昌五輪や6月から7月にかけてのFIFAワールドカップがあるが、需要の押し上げ効果は限定的だと予想される。

## 寄与度



☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し4.2%の減少を見込んだ。

# JPA (4) 印刷・情報用紙



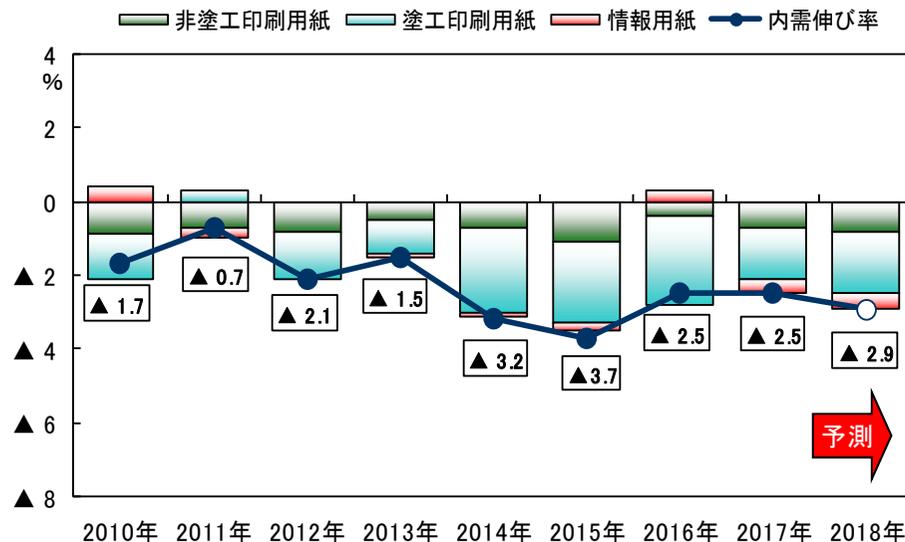
## 「近年の動向」

★印刷・情報用紙の内需は、2006年をピークに縮小を続けており、2010年には1,000万トンを割り込んだ。2017年も電子化の進行等により減少基調が続いた。主要品種は、印刷用紙(非塗工、塗工)、情報用紙ともに減少し、印刷・情報用紙全体では11年連続の減少。サプライ別には国内出荷(4年連続)、輸入(5年連続)ともに前年を下回った。輸入比率は、前年比横ばいの11.7%となった。

## 「2018年予測」

☆非塗工、塗工、情報ともに電子化や出版向けの不振等により減少継続を見込む。

## 寄与度

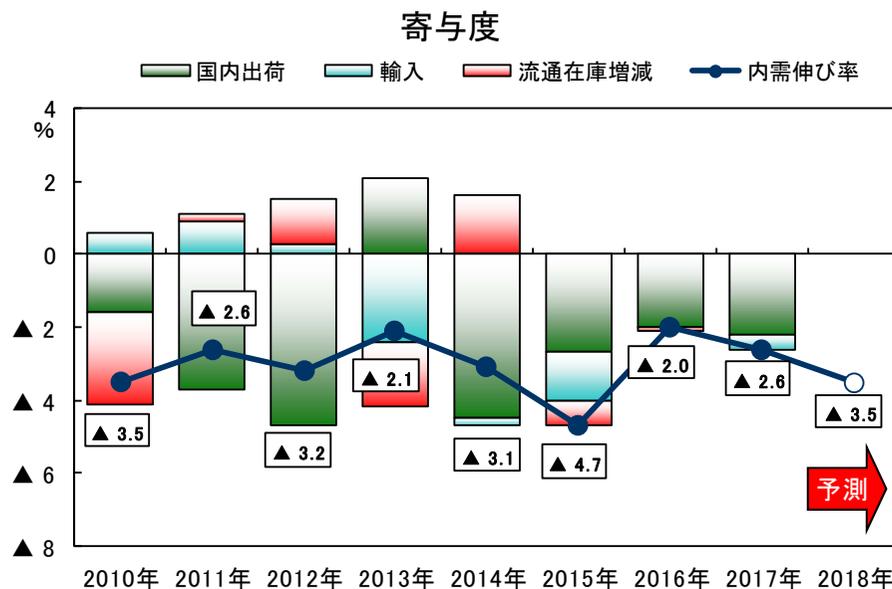
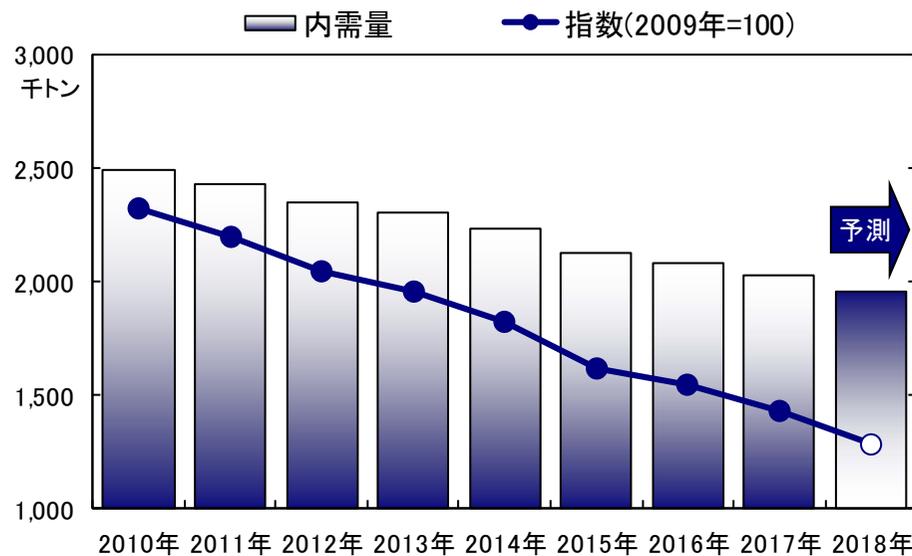


☆印刷・情報用紙の合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は821万トン、前年に対し2.9%減、約25万トンの減少となる。マイナス成長は12年連続。

☆品種別寄与度は、非塗工印刷用紙は0.8pt減、塗工印刷用紙は1.7pt減、情報用紙は0.4pt減と、印刷用紙を中心にいずれもマイナスとなっている。

☆詳細については当該品種頁参照。

# JPA (4)-① 非塗工印刷用紙



## 「近年の動向」

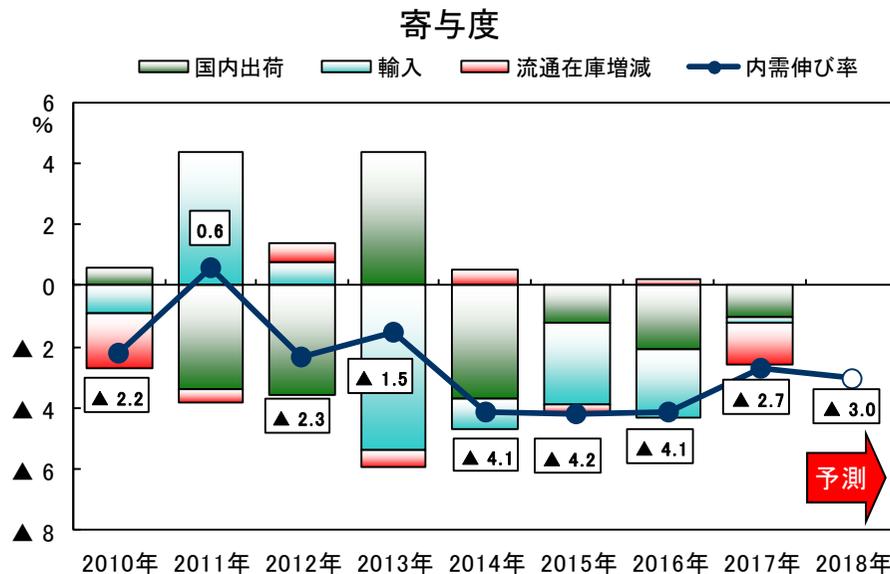
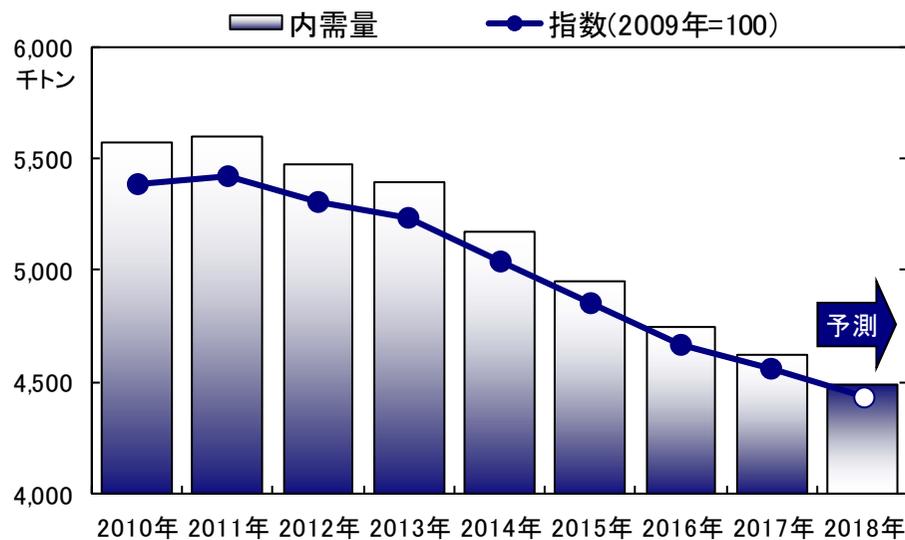
★印刷・情報用紙のうち、非塗工印刷用紙の内需は、中・下級印刷紙を中心に縮小が続いている。2017年は、汎用性の高い上級印刷紙は引き続き底堅い需要を示したものの、通年では上級印刷紙、中・下級印刷紙、薄葉・特殊印刷紙とも減少、全体では2005年以降、13年連続で前年を下回った。サプライ別にみると、国内出荷(4年連続)、輸入(2年ぶり)ともに前年を下回った。

## 「2018年予測」

☆上級印刷紙は、汎用性が高く、チラシや目論見書・取扱説明書、学習参考書関連など底堅い需要があるものの、引き続き企業の経費削減、電子化の進行に伴う帳票類等の減少や小口印刷の内製化といった動きにより、前年を若干下回ると予想される。中・下級印刷紙は、主たる需要先である出版業界を取り巻く環境が依然として厳しく発行部数の減少が続いている。特に雑誌向けは、スマートフォンやタブレット端末向けのアプリケーション・ソフトの拡大等による情報源や娯楽の多様化の影響が大きいことから、引き続き不振が予想される。

☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し3.5%の減少を見込んだ。

# JPA (4)- ② 塗工印刷用紙



## 「近年の動向」

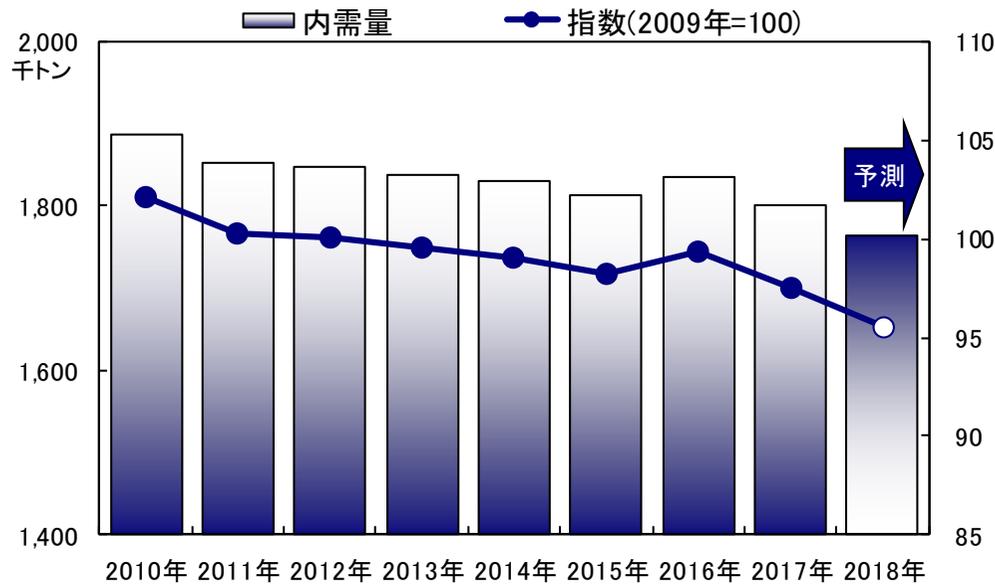
★印刷・情報用紙のうち、塗工印刷用紙の内需は2007年以降、縮小傾向にある。2017年は、引き続き電子化の進行等を背景とした販促用商業印刷の減少や雑誌の発行部数減等により、主要品種は前年割れとなった。サプライ別には、国内出荷(4年連続)、輸入(5年連続)ともに前年を下回った。輸入比率は前年比横ばい(7.9%)、ピークの2012年(17.9%)に比して10.0pt低下した。

## 「2018年予測」

☆雇用・所得環境の改善による消費の回復を背景に、景気の緩やかな成長持続が期待されるなか、好調な企業業績を背景に広告増が予想される。ただし、紙媒体の需要は減少傾向が続くものと思われる。需要各社の継続的なコスト削減に加えて、ネット広告へのシフト等が続くと見られる。また、カタログ、チラシ等、販促用商業印刷については、部数減やサイズダウン、低米坪化等により、引き続き低調に推移するものと予想される。

☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し3.0%の減少と予測した。主力品種は上質コート、軽量コート、微塗工紙、いずれも前年を下回ると見込んだ。

# JPA (4) - ③ 情報用紙



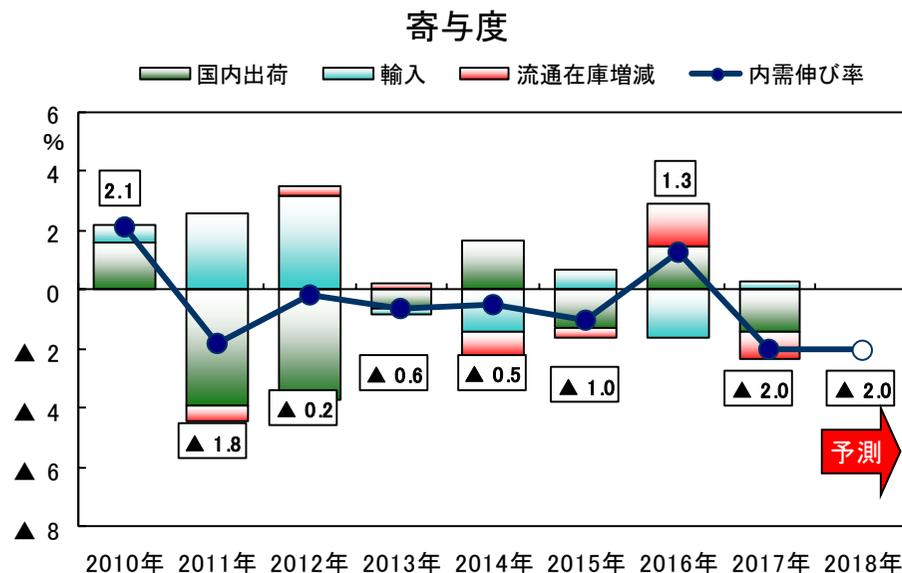
## 「近年の動向」

★情報用紙の内需は、2011年以降は印刷用紙よりは比較的底堅い動きとなったものの減少が続いた。2016年にはPPC用紙が牽引し、6年ぶりのプラスに転じたが、2017年は、再び前年を下回った。サプライ別にみると、国内出荷は減少、輸入は増加し、輸入比率は前年比0.6pt増加の27.3%となった。

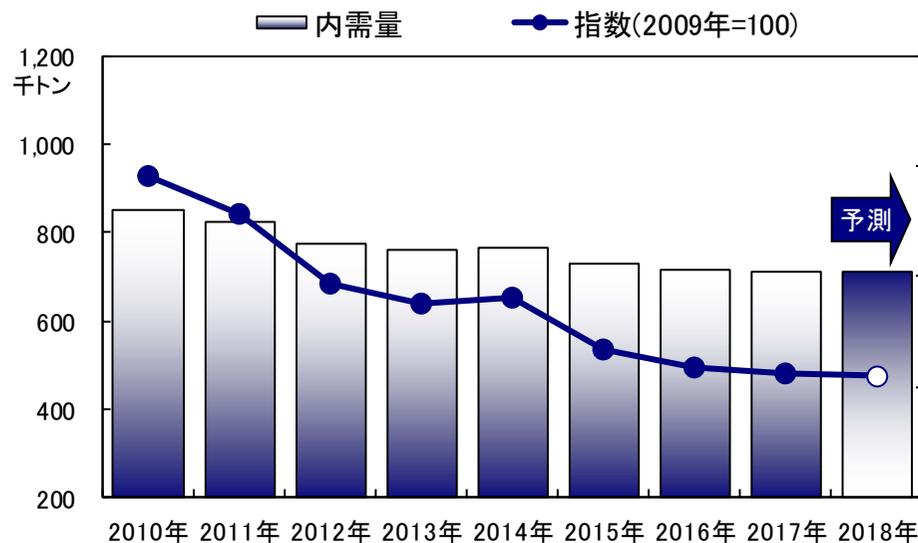
## 「2018年予測」

☆PPC用紙の内需は、ユーザーの節約対策が一段と強まるなか、オフィス関連を中心に使用量削減が進むものと見られることから前年を下回ると予想される。フォーム用紙は、デザインフォームのDM向け等は底堅い需要が期待できるものの、電子化、カット紙化の進展により、全体として減少継続が予想される。複写原紙については、カット紙化やペーパーレス化等により、前年を下回る見通し。情報記録紙については、物流分野での感熱紙ラベル等、堅調な分野もあるが、電子化の影響等もあり、全体としては前年並みとなる見通し。

☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し2.0%の減少を見込んだ。



# JPA (5) 包装用紙



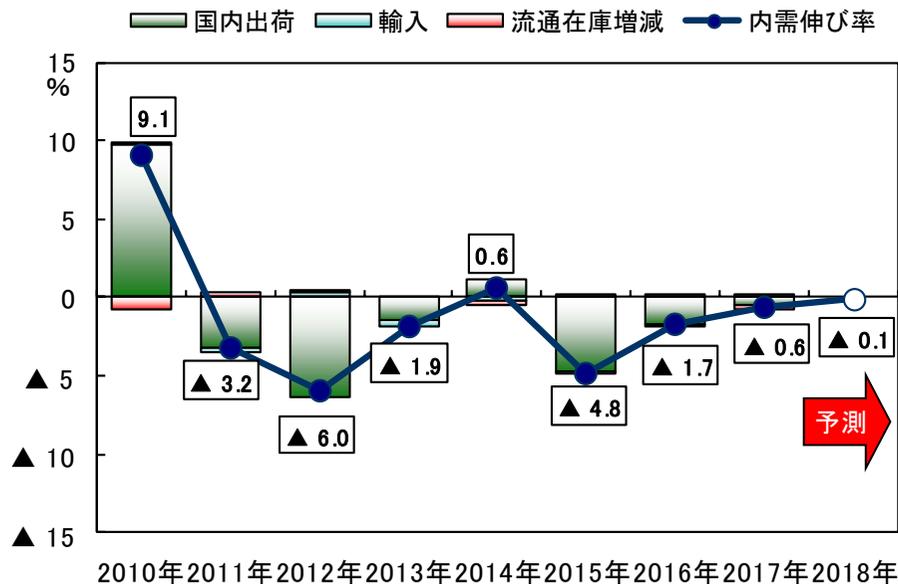
## 「近年の動向」

★包装用紙の内需は、省包装化やポリ袋等他素材へのシフトから減少傾向で推移したが、2014年は消費増税前の駆け込み需要等から4年ぶりに増加した。2017年は、主要需要先の一つである封筒向けが、圧着ハガキ等への切替えによる減少傾向に加え、同年6月からの郵便料金の改定によりマイナス幅が拡大し、3年連続で前年を下回った。

## 「2018年予測」

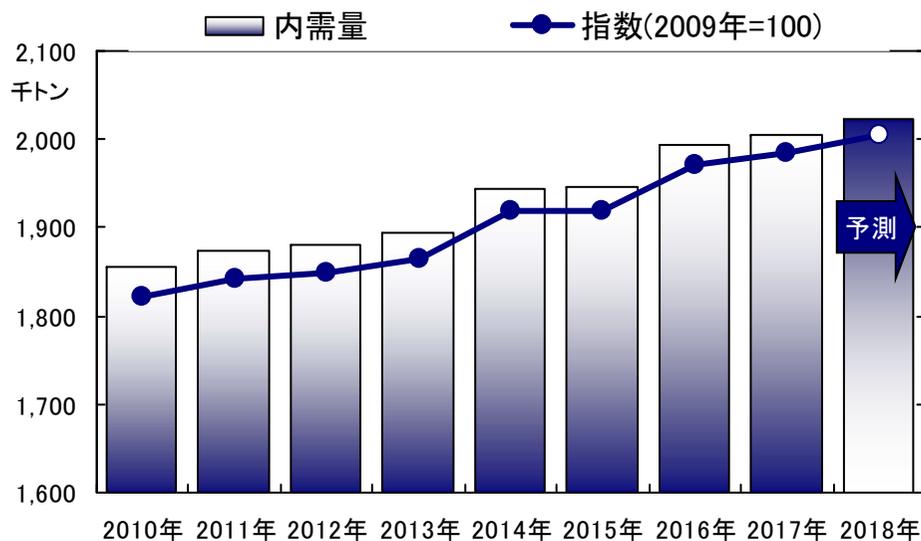
☆ユーザーのコスト意識は強く、簡易包装や省包装化、ポリ袋等他素材へのシフトは継続すると予想される。品種別には、未ざらし包装紙は、重袋では石化向けは堅調とみられるも、米麦向けはフレコン化等の影響から減少が予想される。軽包装はファーストフードや宅配袋向けは引き続き増加が期待される。未ざらし包装紙全体では前年を上回ることが予想される。さらし包装紙は、角底・手提袋は外国人観光客の増加や東京オリンピックに向けたイベント増により増加が期待されるも、包装用途や封筒向けは引き続き減少が予想され、さらし包装紙全体では前年を下回るとみられる。

## 寄与度



☆以上を勘案し、包装用紙の内需は前年に対し0.1%の減少を見込んだ。

# JPA (6) 衛生用紙



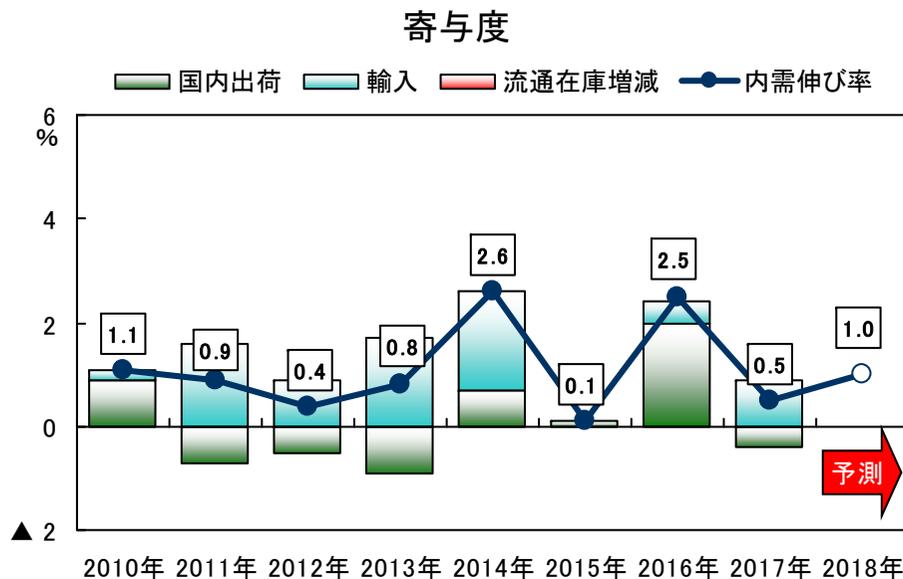
## 「近年の動向」

★衛生用紙の内需は、生活必需品としての底堅い需要等により2008年から増加が続いている。2014年は消費増税前の駆け込み需要により近年では比較的大きな増加となり、以降もインバウンド効果等を背景に需要は引き続き堅調に推移した。2017年の内需は200万トンを超える見込みで、過去最高を更新(10年連続の増加)。サプライ別では、国内出荷は微減で4年ぶりの減少となったが、輸入は2年連続の増加。輸入比率は10.2%に達した(前年より0.8pt増加)。

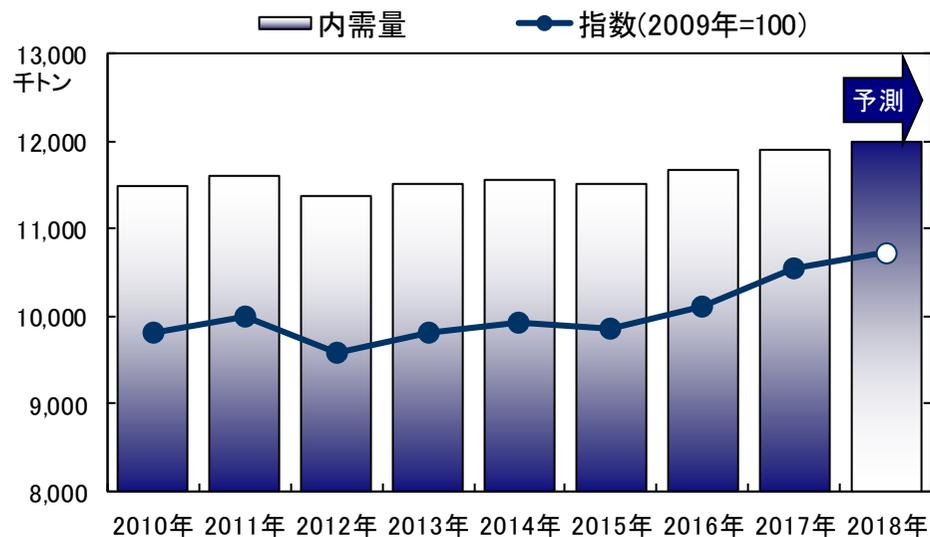
## 「2018年予測」

☆衛生用紙は人口減少といったマイナス要因はあるものの、生活必需品としての底堅い需要や、世帯数の増加、訪日外国人の増加によるインバウンド効果等から引き続きプラスが予想される。品種別では①ティッシュペーパーは生活必需品としての需要や、保湿ティッシュ等の高付加価値製品の使い分け需要、②トイレットペーパーはインバウンド需要、③タオル用紙はホテルや商業施設等の増加による業務用需要等がそれぞれ見込まれ、衛生用紙全体の内需は増加する見通し。

☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は前年に対し1.0%の増加を見込んだ。



# JPA (7) 板紙合計



## 「近年の動向」

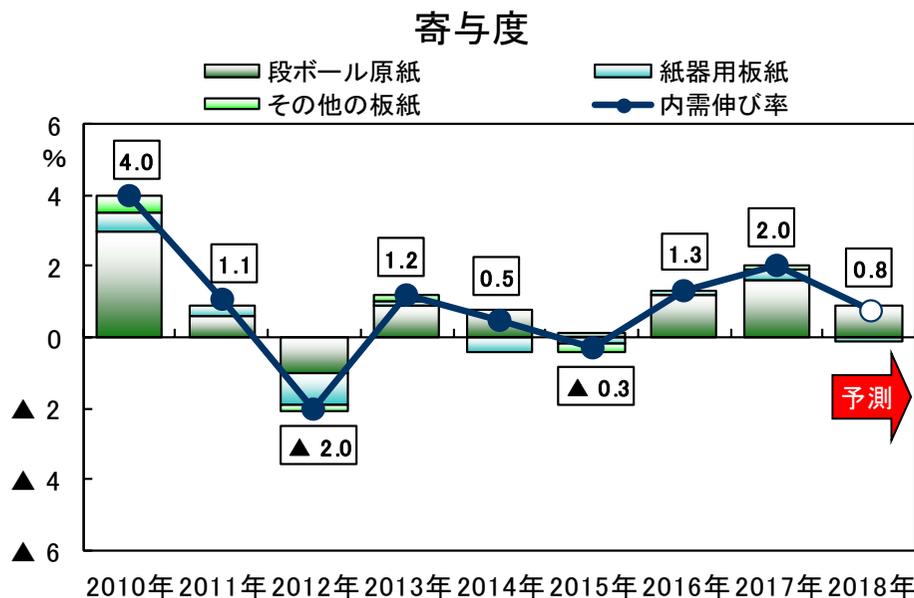
★板紙の内需は、堅調な食品需要に支えられ増加傾向で推移したが、2012年は輸出関連需要の減少等から、2015年は食品等の値上げによる影響や前年の増税前の仮需反動から前年を下回った。2017年は加工食品や電気・機械器具向けの増加から、前年を上回った。

## 「2018年予測」

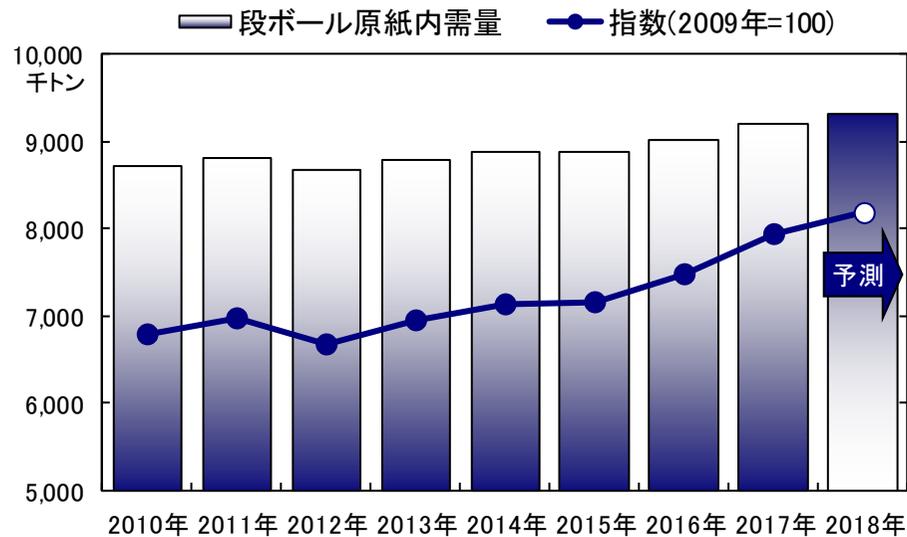
☆主要品種について、主力の段ボール原紙は1.2%増、他方、紙器用板紙は0.6%減(うち白板紙は0.6%減)とマイナスを見込んだ。

☆板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,200万トン、前年に対して0.8%増、約10万トンの増加となる。プラス成長は3年連続。

☆品種別寄与度について、段ボール原紙は0.9pt増、紙器用板紙は0.1pt減、その他の板紙が0.0pt減と主力の段ボール原紙が牽引する。



# JPA (8) 段ボール原紙①



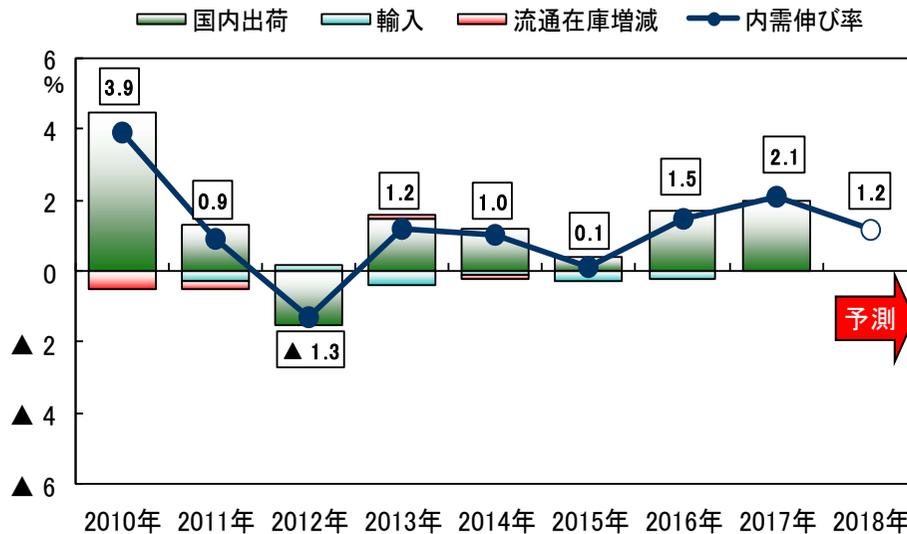
## 「近年の動向」

★段ボール原紙の内需は、2010年はリーマン・ショックによる落ち込みの反動から、2011年は大震災後の被災地支援等がプラスに寄与し、2年連続で前年を上回った。2012年は電気・機械器具向けの不振等から前年を下回ったが、2013年以降は飲料を含めた加工食品向けを中心に堅調に推移し、5年連続のプラスとなった。

## 「2018年予測」

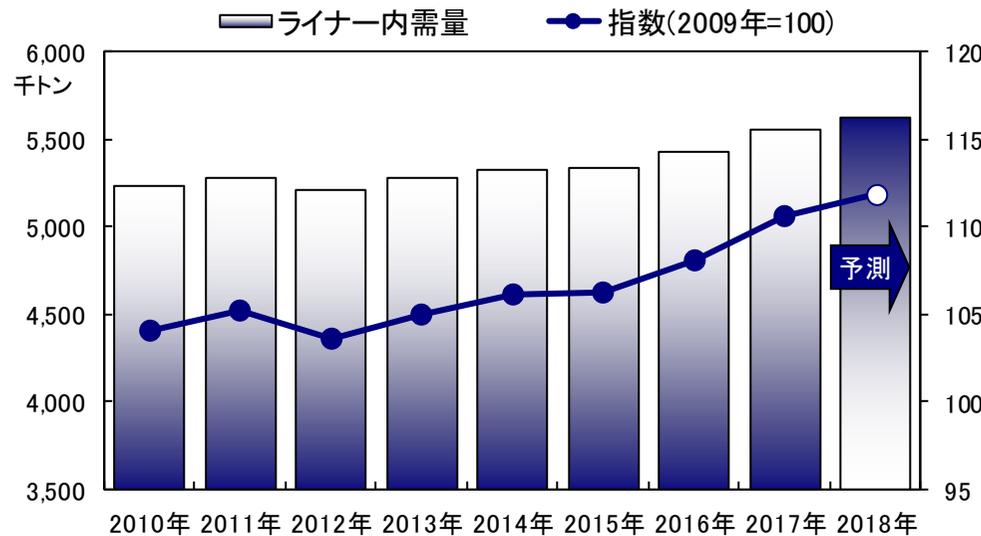
☆全国段ボール工業組合連合会の需要予測によれば段ボールシートの生産は1.2%増とプラスを見通している。主要分野では、加工食品向けを中心に総じて堅調と見ている。段ボール原紙については、これらの需要動向を参考に、近年原紙の軽量化に一服感があることから、シートの伸びと同程度と見た。

## 寄与度



☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し1.2%の増加(ライナー:1.2%増、中芯原紙:1.2%増)を見込んだ。

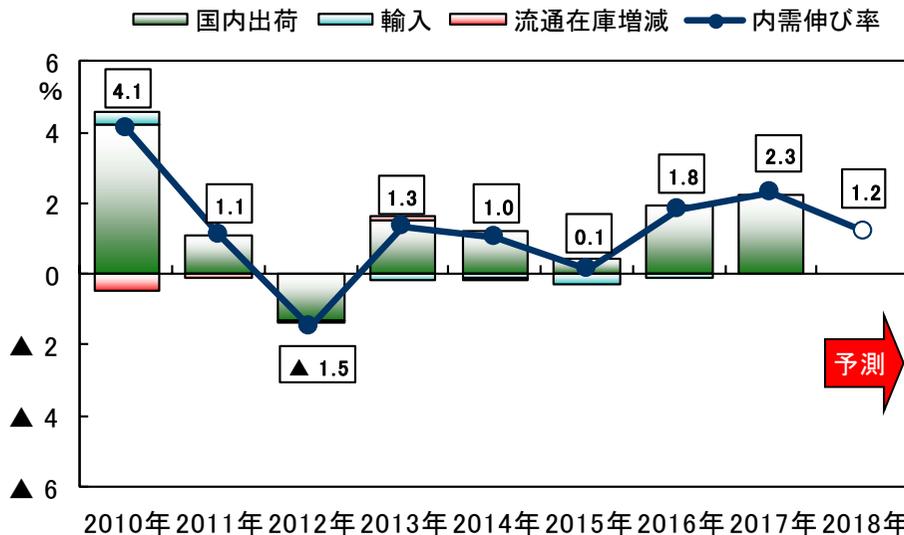
# JPA (8) 段ボール原紙②



## 「2018年予測:分野別の需要動向」

☆加工食品向け(2017年1-10月需要部門別構成比:42.7%、以下同じ)は、冷凍食品は世帯数や外国人観光客の増加、さらに大手食品メーカーによる新工場やライン増設の動きもあり、増加が見込まれる。菓子分野は、スナック菓子は前年の原料問題(ジャガイモ不足)を背景とした出荷減の反動から増加が見込まれ、チョコレートは引き続き機能性チョコを中心に堅調とみられる。飲料分野では、アルコール関係は、ビール類は引き続き減少が予想されるも、チューハイを中心としたRTD飲料は好調を持続するとみられ、全体では前年並みと見られる。清涼飲料は、炭酸飲料や茶系飲料を中心に増加が予想される。加工食品全体では前年を上回ると予想される。

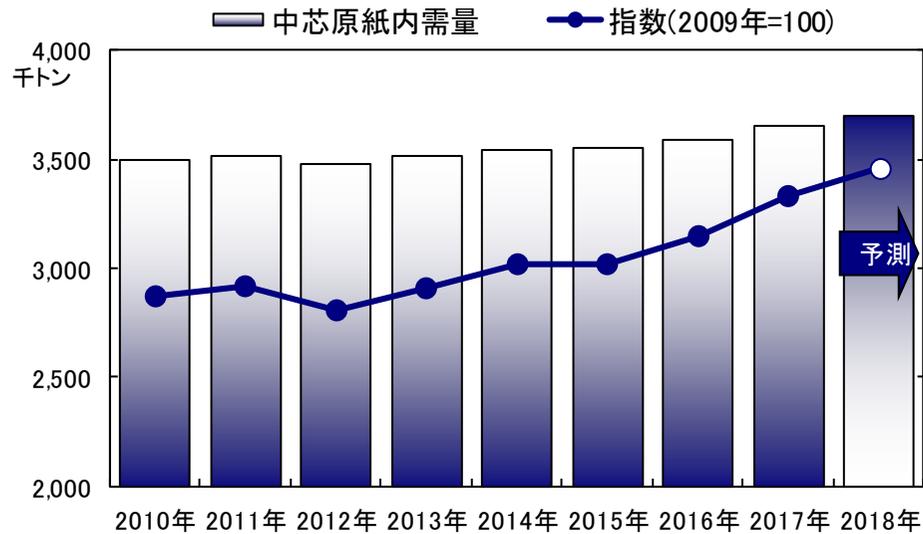
## 寄与度



☆青果物向け(構成比:10.6%)は、農業人口や作付け面積の減少傾向はあるものの、食の安心・安全を背景とした国産品需要や農水省による農産品の輸出力強化の動きもあり、前年並みが予想される。

☆電気器具・機械器具向け(構成比:7.5%)は、海外経済の回復や円安基調により輸出増が予想され、高性能・高付加価値製品の需要増による国内生産品の増加、家電エコポイント制度時(2009年~2011年)に購入した家電の買替え需要も期待されることから、前年を上回ることが予想される。

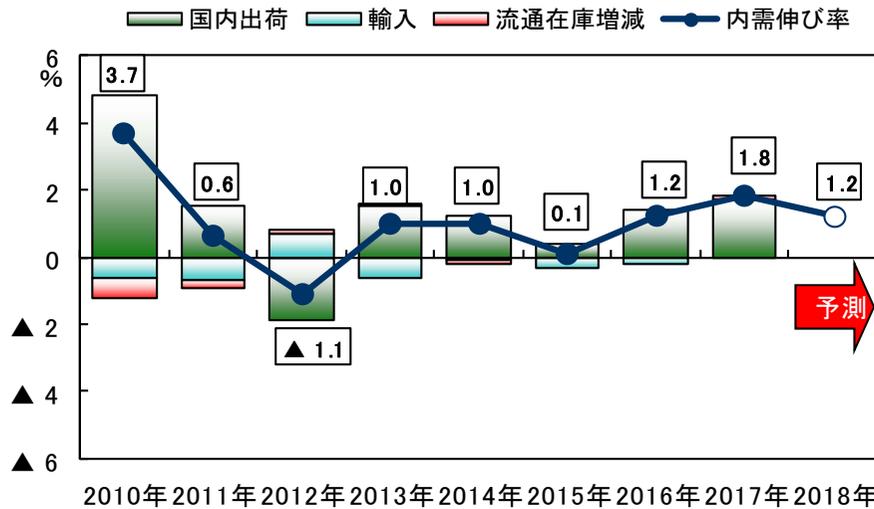
# JPA (8) 段ボール原紙③



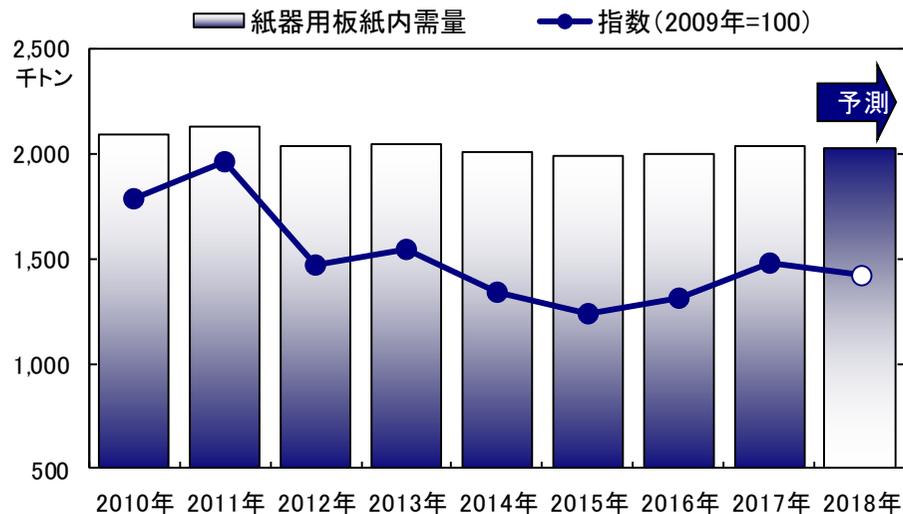
## 「2018年予測:分野別の需要動向」

- ☆薬品・洗剤・化粧品向け(構成比:6.3%)は、高齢化社会や健康志向の高まりによる需要増に加え、インバウンド需要も引き続き見込まれ、前年を上回ることが予想される。
- ☆陶磁器・ガラス製品・雑貨向け(構成比:5.1%)は、消費者の節約志向は依然根強いものの、住宅関連需要の増加や2020年東京五輪のインフラ関連需要等の恩恵は期待され、前年並みと予想される。
- ☆通販・宅配・引越向け(構成比:5.1%)は、国内のネット通販は引き続き好調で、中国などアジア向けの越境通販の拡大もプラスとなり、増加が予想される。
- ☆繊維製品向け(構成比:1.8%)は、消費者の節約志向や少子化はあるものの、衣料品の低価格品市場は堅調で、インバウンドによる需要増や衣料品生産の国内回帰の動きもあり、前年を上回ることが予想される。

## 寄与度



# JPA (9) 紙器用板紙—①



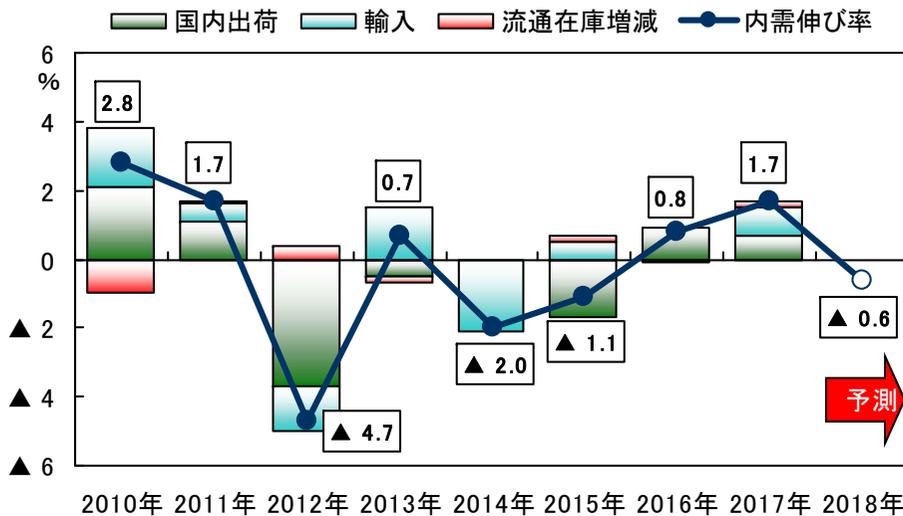
## 「近年の動向」

★紙器用板紙の内需は、省包装化、軟包装化等需要家のコストダウン強化による包装の合理化が進められる中、2015年をボトムに緩やかな回復傾向を示している。2017年も需要の5割を占める食品向けや医薬品・化粧品向けを中心に、インバウンド効果もあり、2年連続の前年超えとなった。

## 「2018年予測」

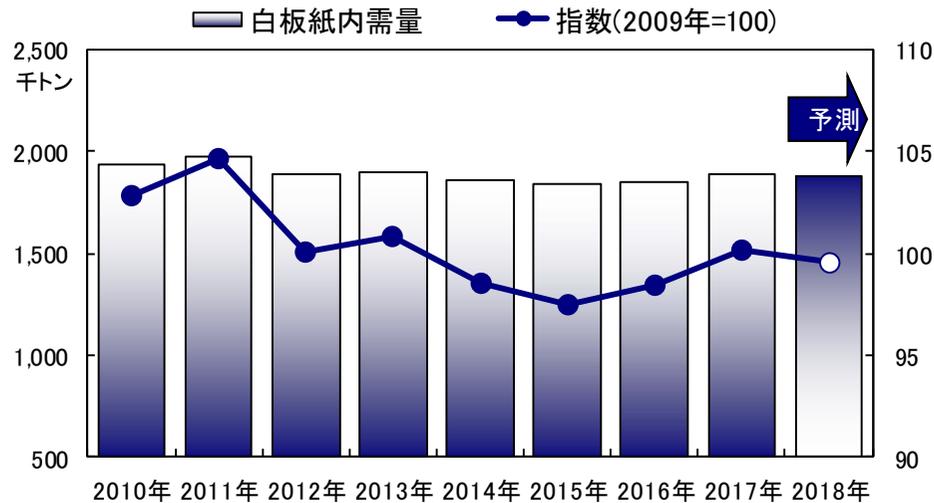
☆食品向けを中心に、医薬品、化粧品関連の需要はインバウンド効果もあり、堅調に推移すると見られるが、出版向けの減少や需要家のコストダウン強化による個包装の減少、パッケージの小型化、軟包装化の継続等により、内需は僅かながら前年を下回ると予想される。

## 寄与度

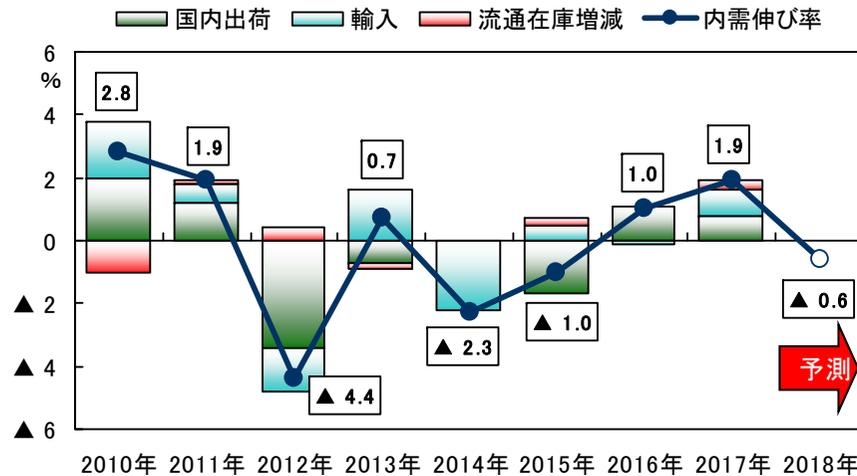


☆以上を勘案し、紙器用板紙の内需は前年に対し0.6%の減少(白板紙:0.6%減、黄・チップ・色板紙:0.6%減)を見込んだ。

# JPA (9) 紙器用板紙—②



## 寄与度



## 「2018年予測：分野別の需要動向」

☆食品向け(需要部門別構成比:紙器用板紙の30%程度/製菓を除く)については、核家族化、個食化等によるレトルト食品、健康志向のヨーグルト等は堅調に推移すると見られるが、国内における市場の成熟化、軟包装化の継続等から全体では前年並みと予想される。

☆製菓向け(20%程度)についても、ジャンルとしては健康志向で大人向けのチョコレートやオフシーズンの需要開拓(常食化)が奏功したアイス、加えてイベント需要等に期待されるところだが、少子高齢化に伴う若年層の減少等国内市場の成熟化等により前年並みと予想される。

☆医薬品・化粧品向け(15%弱程度)については、高齢化の進展等により医療費抑制の動きから後発医薬品への切り替え、(越境ECを含む)インバウンド関連等で一般用医薬品(市販薬)や化粧品は引き続き堅調に推移すると見られるため、前年を上回ると予想される。

☆商業印刷向け(10%程度)については、煙草関連を中心に販促POPは縮小傾向。トレーディングカードも、ヒットキャラクターの不在。加えて電子化等もあり、前年を下回ると予想される。

☆出版・書籍向け(5%程度)については、発行部数の減少等により、表紙用途を中心に引き続き前年を下回ると予想される。

### 内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティシュペーパー、トイレットペーパー、タオル用紙及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

### 予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算している。

なお、予測値及び見込み数値等は2017年末時点で得られた11月までの実績を基に作成した。